

作成番号:0198

=====

一般社団法人 日本侵襲医療安全推進啓発協議会 「会員向けメールマガジン」

=====

号数:2024-198

内容:口臭と認知症の関連性:日本における追跡調査

出典:Association Between Oral Malodor and Dementia: An 11-Year Follow-Up Study in Japan.
Journal of Alzheimer's disease reports. 2024;8(1);805-816.

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/38910945/>

口臭は社会的交流の頻度を下げることに関わり、その頻度が低いと潜在的な認知症リスクが増加する。すなわち、口臭はアルツハイマー病を含む認知症リスクを増加させる可能性がある。東京医科歯科大学の研究者らは、口臭と認知症との関連を調査し、Journal of Alzheimer's Disease Reports 誌 2024 年 5 月 17 日号に報告した。

秋田県・横手市の Japan Public Health Center-based Prospective Study を用いて、検討、対象は、2005 年 5 月～2006 年 1 月に歯科検診を行った 56～75 歳の 1,493 人。認知症発症のフォローアップ調査は、2006～16 年の介護保険データを用いて行い、口臭のレベルに応じて、口臭なし群、軽度の口臭群、重度の口臭群に分類した。

平均年齢は 65.6±5.8 歳、女性の割合は 53.6%であった。フォローアップ調査終了時の認知症発症率は全体で 6.4%(96 例)、重度の口臭群で 20.7%であった。フォローアップ調査(15,274.133 人年)を通じて、1,000 人年当たりの認知症の平均発症率は 6.29 であった。最も発症率が高かった群は、重度の口臭群であった(1,000 人年当たり 22.4)。交絡因子で調整したのち、重度の口臭群は、口臭なし群と比較し、認知症発症の危険性が 3.8 倍(95%信頼区間[CI]:1.5～9.4)増加した。

より大規模なサンプルサイズによる検討が必要とされるものの、本研究において、口臭と認知症発症との有意な関連性が認められた。

The hazard ratios of oral malodor on dementia using the univariable, multivariable-adjusted, and inverse probability weighted Cox proportional hazards models after multiple imputation ($n=1,493$)

	Univariable model		Multivariable model [†]		Inverse probability weighted [‡]	
	Hazard Ratio	(95% Confidence Interval)	Hazard Ratio	(95% Confidence Interval)	Hazard Ratio	(95% Confidence Interval)
None	1	Reference	1	Reference	1	Reference
Mild	0.77	0.5; 1.19	0.78	0.5; 1.23	0.78	0.50; 1.24
Severe	3.53	1.53; 8.18	3.80	1.54; 9.37	4.44	1.20; 16.44